令和7年度ユニットセンター総合評価基準(案)に対するユニットセンター意見一覧

		意見
評価指標の見直しに関わる意見	フォローアップ状況 (回収率の評価について等)	対面調査(学童期・採血)実施面での考慮や、対象者数の地域間の違いも加味した回収率なども考慮いただけるといいのではないかと。 割合だけではなく、絶対数での評価もお願いしたい。
	業務全体の取組状況 (PDCAの取組の評価について)	コミュニケーション活動の評価や互選の基準を示していただきたい。
	エコチル調査の成果	論文の学術的な評価についてはどのような評価基準を使用されるのか。分野ごとのTop10%論文の割合や、チーム内のh-index評価(平均、あるいは上位数名とするなど)など近年用いられてきているIF以外の基準も教えてほしい。
	予算配分の考慮の考え方	「卓越して優秀」になるためには、7個以上の○を獲得する必要があるが、成果発表項目で○のないユニットセンターであっても研究者育成に予算配分されることとなる。成果に関する評価がなされないユニットセンターへ研究者育成に係る予算配分がなされることについては理解がされにくいと思われる。 【UC提案の対応案】 ・予算配分が、社会還元促進、人材育成が目的であれば、ユニットセンターごとではなく、卓越した研究者(この場合、表彰、報償があった研究者個人とか)に予算を配分する。 ・予算配分の対象は、成果発表に○がついていることを要件とする。 ・「卓越して優秀」なユニットセンターには、用途を限定せずに追加で予算配分する。
		ユニットセンターに委託する「研究者育成に係る業務」について、海外留学費用等も含むのかなどについて具体例を明示していただくと、研究者のモチベーションアップにつながると思う。
	その他、評価について	対面調査を評価の対象にしてはどうか。例えばどのような工夫をしているか、対象者とどのようなコミュニケーションをとっているかなどをコミュニケーション活動に含めても良いのではないかと。 SABCと、新たな案の「卓越して優秀」「優秀」「良好」「不十分」の4区分との違いが判らない。 調査参加者数に対する教員数、スタッフ数なども評価対象にしていただきたい。 (ゆとりのあるUCがあるとしたら、広報やその他の業務も行なえるパワーがあると思う。) 減点方式は萎縮を招く。そもそも減点の先にある「評価を落とす」の先は何か。ユニットセンターそのものをなくしていくための道筋か。